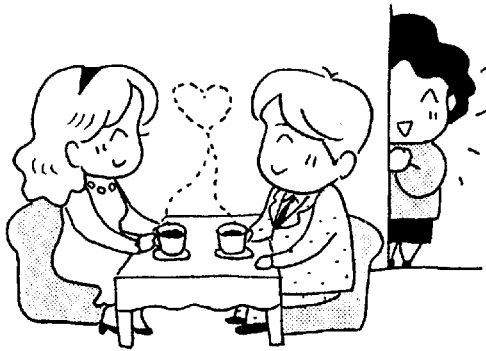


最近電車の車内や駅で見かける予備校のポスターの「な
んで、私が東大に!」の喜びと違って、「なんで、私の子
が障害児に!」と、嘆き悲しんだのはもう20数年も前。
「不幸な子をもった不幸な母親、輝いていた私の人生はつ
らくて悲しい人生に代わる」なんて覚悟をしたのはいつこ
ろだったでしょうか。中澤さんより「障害のある子のお母
さんとして、その幸せな人生を地でいっている明石さん」
と今回バトンタッチされ、いつから不幸な母親が幸せな母
親に代わったのかなあとつい回想するはめに。

子どもの障害をすっかり受け止め、育児に対する自信を
回復し、明るさを取り戻せたのは、障害児をもつお母さん
たちと出会い「私だけじゃない」と孤独感や絶望感から開
放され、助け合い励まし合いながら連帯感をもてたから。
また、専門家が教えてくれたノーマライゼーションやイン
テグレーションの思想も、「地域に根ざした生き方」を学び、
地域に飛び込む勇気を与えてくれて感謝! そして何より
前向きに積極的に子育てができたのは、日々生活している
地域の多くの方々の理解と共感と強い支えがあったからで
す。障害があっても(障害を治してからでなく)、どうし
たらこの集団に受け入れることができるかをともに真剣に
考え、惜しみなく力を貸してくれたからに他なりません。

また肩の力を抜くことができたのは、「能力が100で



【リレーエッセイ】 わがまま宣言

「幸せな親」も思案中

明石 洋子 イラスト: 渋谷真理子

ないと意味がない」という価値観をやっと捨てることがで
き、障害ゆえにたとえ50しかできないなら、その不足分の
50は周りが理解し工夫すれば自立は可能、ありのままに生
きればいいじゃないかと思えたときから。さらに障害児の
子育てはおもしろいと感じるようになったのは、クラスメ
イトや地域の人々と、彼の興味や特性を見つけては発達の
手立てを工夫し、微々たる進歩とともに喜び感動し、充実
感を共有しあえたからだと思います。

こうして地域の中でともに暮らしていくうちに、「人」
という最高の財産を増やし、ストレスをスパイスに、変化
に富んだ人生を心より楽しみ、障害児本人はもちろん、
「障害児の親も幸せ」と実感できるようになりました。

さて今の彼は、以前特集「手をはなす」(九七年四月号)
の中で「徹ちゃんと呼べないでと大人宣言を受け」という
タイトルで書いたように「ファミリーを作る(結婚)の独
立宣言」をしていましたが、その第一歩の「お見合い」を
先日しました。自閉症同士ですからコミュニケーションは
不十分(双方の親がまさに通訳です)、しかしお互い気に
入ったようで、再会を約束。「本人の意思を尊重する」を
モットーにしている私ですが思案中。たぶんこの件で最高
の支援者になるであろう武居さんに、バトンタッチしまし
よう。どうぞよろしく!